

一般社団法人ロボカップジュニア・ジャパン 2024年度第3回理事会議事録

1. 日 時 : 2024年12月21日(土) 10:02~12:16
2. 場 所 : 大阪市北区豊崎3-20-1インターグループビル ZoomにてWeb会議
3. 出席者
(1) 出席者 9名 大橋健、水野勝教、今井俊二、島谷太、森重智年、松山森仁、
政岡恵太郎、瀧本英智、田中宏明(監事)
欠席者 2名 中島晃芳、野村泰朗
(2) 理事以外の出席者 2名
浅沼まり(事務局)、休場万喜(事務局)
4. 議 事
 1. ジャパンオープン2025名古屋について
 2. 理事改選について
 3. Webページ刷新に関する提案
 4. その他
5. 資 料
資料1. RCJJ Webページ刷新に関する提案書
6. 議事概要

(1) 議長の選出

①大橋代表理事が議長に選出され開会を宣言し、本理事会は、定款第18条の規定を満足しており、成立していることを報告した。

(2) ジャパンオープン2025名古屋について

①水野専務理事より、各リーグの進捗状況について確認がなされた。

サッカー担当の松山理事より、エントリーチーム数の報告期限が12月末のため、まだチーム数は決まっていないが、増える可能性については名古屋市へは連絡済み、インターグループへはこれからの確認になるとの報告がなされた。今井理事より、新設されたサッカーライトウェイトユースのチーム数が決まっていないが、推薦固定枠1を守って、23チーム(ブロック数)で名古屋市へ報告してはどうかとの意見がなされた。

レスキュー担当の森重理事より、CoSpaceのライセンス料等の競技運営費用に関して、予選会にも一部適用するため、阪神ブロックと名古屋市で費用の負担案分を協議中との報告がなされた。

エントリー担当の今井理事より、スタッフエントリー、交通費補助等、前年どおりで進めるとの確認がなされた。

水野専務理事より、物価高騰のためスタッフへの弁当の予算は都度相談することとした。また、新しく名古屋市長が就任されたので、開会式に参加されたのちの対応について確認がなされた。

海外チーム受け入れ数について、森重理事より、レスキューは前年並みのワールドクラスで3チーム受け入れ予定。チャレンジクラスの受け入れは無し、来期以降で検討するとの報告がなされた。

政岡理事より、サッカーは香港の学校から6チーム参加の申し出があった。他の国からもエントリーはあると思うので、公平性を保つため検討する必要がある。受け入れ数については、サッカー技術委員会に検討して頂く。松山理事より、台湾のチームからも問い合わせがあるとの報告がなされた。

瀧本理事より、交流会について、野村理事と相談し早期に対応するとの報告がなされた。また、総合受付の設置は検討するかとの問いに対し、水野専務理事より名古屋市と協議するとの回答がなされた。大橋代表理事より、日本委員会やジュニアに関係する来賓については、引き続きジュニアの受付で対応頂きたいとの要望がなされた。

②森重理事より、A I の取り扱いについて、日本委員会や他のリーグはどのように考えているか質問がなされた。大橋代表理事より、日本委員会はA I 全般を禁止しているという誤解が伝わっているようだが、RoboCupのルールとして、物体の認識機能付きカメラを使用してはいけないというルールがあるが、日本委員会では禁止はしていない。水野専務理事より、2017年の名古屋世界大会においてPixyを使用すればオレンジボールを認識することはできたと、ライントレース機能は使用してはいけないと言われていた。全面的に使用を許可してしまうと審判が困る等の問題もあるので、理解をして使用しているかはインタビューで確認するしかないのではないかと。メジャーや世界大会では使用する傾向にある。A I カメラの使用を禁止し、物体認識モデルを一から製作するとなると大学生レベルの知識が必要になる。カメラにライントレース機能があると言うが、大会環境により変わるので、うまく機能するとは限らない。インタビューで理解しているかを確認し、大会に合わせて作り変えるのも教育の一環ではないかとの意見がなされた。大橋代表理事より、国内では使用可の方向にあるが、ヨーロッパでは厳しい傾向にあるとの意見がなされた。森重理事より、国際レスキューでは使用を認める方向で提案がなされており、評価方法をどうするかが今後の課題になっているとの意見がなされた。松山理事より、サッカーでは特に議論にはなっておらず、自由に使用しているとの説明がなされた。大橋代表理事より、日本委員会では使い方で評価し、禁止はしていないとの説明がなされた。

③水野専務理事より、サッカーはポスター、インタビューをどのように順位に反映させているかとの質問がなされた。松山理事よりポスターの点数については、サッカーの全リーグにおいて一昨年より順位に反映しており、Openでは昨年よりインタビューも順位に反映させている。但し、評価方法は国際と異なり、国内では勝点のみで順位を決定し、同じ勝ち点のチームが出た時のみポスターやインタビューの点で差を付けているとの説明がなされた。ポスターデータの提出は、前年どおり技術委員会を通じて今井理事へ提出することで確認がなされた。

(3) 理事改選について

大橋代表理事より、今期をもって理事が改選され、来年1月より次期理事の立候補の受付が始まるとの案内がなされた。年長者の理事においては、その経験を活かし側面的なサポートを続け、年少者は引き続き改善をし、ジュニアをよりよい方向へ導いてもらいたい。自薦、他薦は問わないので、新しい方にも立候補頂きたい。前回と同様に立候補者へはプロフィールと抱負をお書き頂くことになるとの説明がなされた。

(4) Webページ刷新に関する提案

政岡理事より、資料1に基づきWebページ刷新の提案がなされた。まず初めに、デザインを刷新しつつ、選手が欲しい大会情報などは現状維持し、モバイルにも対応させる。初見者にもイベント情報を分かりやすくする。新規として各地の大会情報を一元的に収集、発信できるシステムを追加。各ノード・ブロックの運営者に権限を与え、大会情報の投稿を受け付ける。将来的には、ジャパンオープンのチームエントリー、会員募集、参加者用連絡網等々利便性を向上するためのシステムを追加していきたいとの説明がなされた。

島谷理事より、他社と比較したうえで、理事会に諮り総会で承認を得る必要があるのではないか。今井理事より、理事である政岡氏がシステム開発と運用の両方をするのはどうか。HPにWeb刷新の応募要件をあげ、業者を広く公募してはどうかとの提案がなされた。今井理事が1月初旬頃までに公募要件をHPに掲載し、1月末の締切りとし2月の理事会で応募者と政岡理事の提案を議事に諮ることで承認がなされた。

(5) その他

①松山理事より、予算案の設備改修費を増額して欲しいとの要望がなされた。理由としては、①サッカーのフィールドが老朽化していること②国際では2026年からサッカーライトウェイトのボールが変更される可能性があり、新しく手配する必要があるため。森重理事より、レスキューも7~8年経過しておりタイルが劣化しているので、予算を確保する必要があるとの要望がなされた。島谷理事より、当法人の運営は大会登録料がすべてなので50~70万円であれば予算計上できるかと思うので検討したいとの回答がなされた。

大橋代表理事より、2025年までは名古屋大会が決定しているが、以降の開催地は決定しておらず自力開催となると予算も厳しくなる。今後は参加費見直しの議論が必要になるとの意見がなされた。水野専務理事より、出来れば値上げは避けたいが物価は高騰し続けているため検討も必要。世界大会ではチーム参加費と個人エントリー費の徴収があるとの意見がなされた。

②田中監事より、RCJJの安定したスポンサーを獲得する必要があり、ジュニアの活動に興味を示す企業もある。今後は自力開催と自治体開催の2本立てで検討する必要があるとの意見が

なされた。

監事という立場にあるが、スポンサー獲得といった活動をしていいのであれば、ご承認頂きたい。島谷理事より、Webページのリニューアルに合わせてオフィシャルパートナーの枠を見直し、50万円以下でリンクやバナーを貼ることも特典になるのではないか。次回理事会までに田中監事と特典の素案をまとめ提案することとなった。

③水野専務理事より、事務局に対し、2025年Brazil世界大会のツアー企画案を次の理事会までに準備するよう指示がなされた。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2024年12月21日

議長	大橋	健	
理事	水野	勝教	
同	今井	俊二	
同	島谷	太	
同	森重	智年	
同	松山	森仁	
同	政岡	恵太朗	
同	瀧本	英智	
監事	田中	宏明	